

# 「東銀座から、岩手の魅力を世界に発信」

「いわて銀河プラザに力を貸してほしい」

都内出版社に勤務する私のもとに、岩手県東京事務所から一通のメールが届いたのは、平成22年の夏のことでした。

「東銀座の岩手県アンテナショップ『いわて銀河プラザ』（以下、銀プラ）をご存じですか？今まで売り上げは好調でしたが、同じエリアにある歌舞伎座が工事を始める影響で、売り上げが下がる可能性が……。県出身OLのボランティアの力をお借りしたい」

その頃、私は職場でもまだまだ修行中。「故郷・岩手に何か恩返ししたい」という思いはあれど、何かできるというわけでもない。「自分に一体何ができるのだろうか」という不安を抱きながら東銀座へと向かいました。そしてそれを機に東銀座で開催されるミーティングに参加するようになりました。最初の議題は団体名。メンバーの1人が提案した「anecco」

という名前をみんなで選びました。「お姉さん」という意味の岩手の方言ですが、「根っこ」という音には岩手の魅力が人々の心に根付くようにという思いが込められています。当初は例えば「銀プラのショーウィンドウをリニューアルするが、A〜C案のどれがいいか？」といった相談に答えるといった活動が主でした。そして、平成23年3月11日を迎えることになります。

## 震災後、自主的な活動を開始

メンバーめいめいが報道などを通し、東日本大震災を目の当たりにしました。実家が被災したメンバーもいる中、「今こそ何かすべきだ」という気持ち募るばかり。何度かの話し合いを経て、「県庁の指示を待つのではなく、自主的な活動を模索しよう」と全員で決断。6月、東京・新宿の会場で、メンバーであり大船渡出身の歌手・濱守栄子さんを中心にチャリティーコンサートを開催し、義援金を被

災地に送りました。

同時に任意団体としての体制ルールも整理しました。東京近郊で働く県出身女性をメンバーとし、男性や県出身者以外の女性をサポートとすること。そして、銀プラを通して岩手県全体を応援する活動を行うことを団体の目的と決めました。「銀プラの応援に限らず、県全体を応援する活動をもよいのでは」という意見が外部から寄せられたこともありましたが、銀プラという「ホーム」があったほうが、進むべき方向を見つけやすくなると考えたのです。

## 活動の3本柱

そして、発足から丸7年が経ち、確立したのが、これから紹介する3つの柱です。1つ目は月の定例会。出版や医療、飲食、介護など、拘束時間の長い職場で働くメンバーが多く、日々の連絡はメールが主。でも、少なくとも月に一度は互いの顔を見て話すこ



いわて銀河プラザ応援女子会  
aneco. (あねっこ)  
(東京都)  
代表

小田 舞子



フリーペーパー『anecco通信』はネットにPDFでも公開



一点一点手作りの「いわて☆アクセサリー」



定例会で岩手の食材を使った商品を試食

とが大事だと考え、平日19時30分から、東銀座の岩手県東京事務所会議室をお借りし、様々な話し合いをしています。県庁の職員から企画を持ち込まれたり、都内の新聞記者が取材目的で同席したりと賑やかな場となっています。

2つ目は『anecco通信』。2012年に「銀プラにある様々な商品を紹介する機会がありません」という意見がメンバーから上がりました。出版社勤務やデザイナー、カメラマンがメンバーにいたこともあって、フリーペーパーを作成する企画が生まれ、瞬間に第1号が完成。2017年8月で第14号を数えています。印刷代は岩手県東京事務所の支援を受け、毎年3月と8月に発行。毎月140人を超える都内・県内の読者に発送しています。

3つ目は、「anecoデー」。これも2012年に始まった活動で、きっかけは「aneco」が

銀プラを「ジャックする」イベントをやってみたい」という提案があったこと。2017年8月で第11回を迎えました。3月、8月のそれぞれ2日間（土・日）ずつ、銀プラのイベントスペースで開催します。当初は銀プラ推薦の商品をメンバーが販売したり、試食を配ったりしていましたが、最近ではaneco自ら県内を回り、これまで銀プラで取り扱ったことがない商品で「これぞ」というものを選び、県内の会社と交渉して商品を販売。また、店内から「anecoラジオ（通称：あねラジオ）」という動画番組をユーチューブで生中継（一部はウェブ上にアーカイブして公開）するといった、独自の企画が増えています。販売商品のラインナップは『aneco通信』の特集内容と連動させ、2017年3月のテーマは岩泉町、8月のテーマは一関市と三陸鉄道

でした。銀プラ前では『aneco通信』を配布し、「そばっち」の着ぐるみに入ってお客様の入店も促進しています。

### 独自商品の企画・販売も

2016年2月には、新たな取り組みとして、オリジナルの「いわて☆アクセサリー」の企画・販売を開始。第1弾は南部煎餅をかたどったヘアゴムやブローチ、岩手県の形をしたネックレスやピアス、わんこそば形のチャーム。2017年の第2弾は「いわて☆こもの」として、座敷わらしや河童などの岩手のモチーフを描いたおちよこと一関市の京屋染物店の手ぬぐいを使った東袋あやぶくろを発売。「これ面白いね」と目に留めていただき、使うことに岩手への愛を感じていただくという魅力溢れる商品ばかりです。

現在、メンバーとサポーターは合計35人を超え、全員が岩手への愛情という強い絆で結ばれています。様々な本業を持つプロ集団という側面もあり、全員が自分のできること、やりたいことを前面に出し、それぞれのスキルを発揮しています。個人的には学業や仕事で東京に向かう予定の県内の皆さんに「東京でanecoの活動に参加したい」と感じていただけるようなコミュニティーにしていきたいと思っています。これからも進化し続けるanecoにご注目ください。そして、定例会や「anecoデー」にお気軽に遊びにいらしてください！